Education first !!

久留米大学医学部
医学教育研究センター
Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第三号　　2015 年 7 月号

教育センターのHPが完成！！

暫定的に公開していた医学教育研究センターのHPがついに完成しました。http://csme.asuscomm.com/wp/ または http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/csme/ からアクセス可能です。もちろん、スマホでもアクセス可能です（パソコンとスマホでアクセスした場合のそれぞれのデザインは若干異なりますが、コンテンツは共通です）。このHPは医学教育研究センター内に設置されたサーバによって運営されています（その節は、諸関係部署に色々とご迷惑をおかけしましたが、その分、良いものができあがりました！）。ここでは、医学教育研究センターのマンスリーレポートやニュースレターの閲覧ができるほか、現在同時に設定中のMOODLE（E-Learningシステム）にもアクセスできます。このMOODLEを活用して、OSCEの参考動画などが閲覧できるように準備中です。また、以前から、学生さんに限らず教員からも講義資料を配信したいと言う要望がありましたので、ファイルの公開スペースを設定中です。こちらは利用可能になりしだい改めてお知らせします。鋭意設定中です。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

まずは、医学教育研究センターについて知ろう！（その3）

Q:　医学教育研究センターのかっこいいＨＰはどこですか？

A:　GO!! http://csme.asuscomm.com/wp/

Q:　医学教育研究センターの見どころは？

A:　カフェインフリーのコーヒー（GOLD BLEND®）は必見

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

旭町キャンパス（筑後川より）

今号の特集

- 今月の学生の声
- 今月の医学時事
- BIG CHNACE !!
- MERSがとまらない。

今月の学生の声

医学部医学科４年　佐々木　淳

出席カードに思う

久留米大学医学部に入学して以来、「出席」に関しては悩んできました。高い学費を預かっている以上、しっかりと出席をとる責務が大学にはある。大学の講義は「講義を受ける権利」があり、それを自己責任においてどう行使するか、だ。プロとしてしっかり代返してくれれば良い。等、色々な説があると思いますし、そのどれも正論なのだろうと思います。講義について学生の権利ばかりを主張してはならない、と「権利と義務」で考える事にしました。そこで最初に思った考えは

権利：講義を受ける権利
義務：出席する義務

というものでした。なにかしっくりこないな、と思い、そういえば他の医学部では出席はどんな感じになっているのだろうか、とネットを見ていると一番興味深かったのは慶応大学医学部微生物学免疫学教室の吉村昭彦教授のHPでした。

慶応大学医学部　吉村研究室 http://new2.immunoreg.jp

吉村先生の講義では

1）出席は受験資格としてカウントされるが代返は厳禁。

2）欠席した場合は手書きのレポート１０枚を提出「しなければならない」。

3）提出時には教授口頭試問があり、これがないと「提出にはならない」。

これは凄いなあ、と思いましたが、ふと先ほどの講義についての「権利と義務」というものがあるとすると

権利：講義を受ける権利
義務：学ぶべき内容を理解する義務

では無いか、と考えるようになりました。

一般的には「理解しているかどうかは、試験を合格すれば良い」となると思いますが、この場合問題となるのは「講義を全部欠席しても、試験さえ合格すれば良い」という最強のカードにつながる点であると思います。自由な大学、主体性により成り立つ大学、という考えでいくならば、この極論でもよいだと思います。僕個人もこの極論への憧れがあります。しかし、１２０人の学年に対して、このルールを適用するのは相当の勇気と覚悟が学生にも、先生方にも必要でしょう。

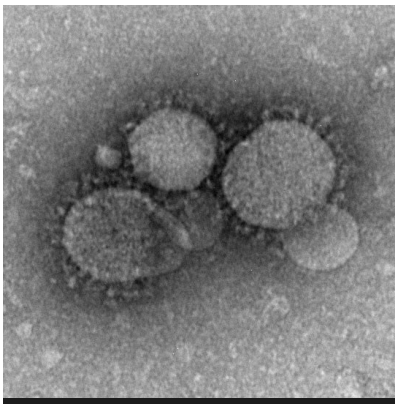
そう考えると、吉村先生の「欠席したら、その講義内容についてレポートを最低でも提出せよ」というのは、厳しさもありながら、見放しもしない優しさが見える気がします。講義内容について理解した、理解するにたる自主学習をしたから、講義に出る権利を放棄したのであるなら、その証をせめて提出しなさい、と。

この方法が最適なのかはわかりません。また１タームで教授が比較的全体を統括する基礎系科目と、多くの先生が分担する臨床系講義とでは事情も異なると思います。ただ、真面目に講義に出ている学生が、途中退出する人間のせいで怒られるといった事態は防げるかもしれません。また、色々な事情、その時の気分で講義どころじゃない学生も、自分でレポートを提出する義務を果たすことで欠席することの責任を自分一人で追うことができて良いかもしれません。

今月の医学時事

中東呼吸器症候群（MERS）が韓国で発生した。韓国での最初の「指標となる」患者は5月20日に確認され、同日、WHOに報告された。 この患者は5月11日に発症し、病院を受診した際に、多くの医療従事者や患者に接した。サウジアラビア以外では最大規模の感染者がでている。2015年6月25日現在、感染者180名、死者29名となっている。詳しくは、巻内記事「MERSが止まらない。」へ。

詳しい発生状況については、国立感染症研究所のHPを参照：http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2186-disease-based/alphabet/hcov-emc/idsc/4676-mers-forth.html



MERS Co-V Photo
http://www.cdc.gov/coronavirus/mers/photos.html

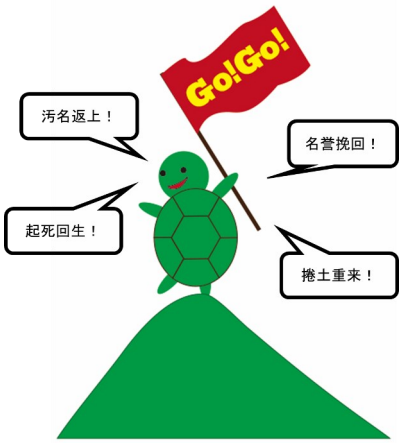
医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

第23回久留米大学病院指導医講習会

方法は色々ありますが、学生も積極的に思うところがある場合は、こんな方法がいいのでは無いか、こんな方法があるのでは無いか、と責任を負って提案する気概も必要だと思います。自分なりに建設的だと思う案を多少の失敗や生意気を犯しながらも提案してみる。結果、先生から不備や甘さを指摘される。でも諦めず食らいてみる。そんな事ができるのが「大学」なのでは無いかと思います。みなさんは出席について、どのように考えますか？難しいですね。

BIG CHANCE !!



今年2月の医師国家試験で「合格率最下位」という衝撃的屈辱を味わった久留米大学は、5月に医師国家試験の専門家を招いて教育講演会を開催し、第5学年合同学習会・第6学年夏合宿・勉強会室チューター制などの国試対策を行っています。

試験結果を確認しますと、久留米大学の合格率は81.6%（受験者114人、合格者93人）、新卒に限ると81.4%（受験者102人、合格者83人）です。全国の合格率は91.6%と高く、新卒に限ると過去最高の94.8%ですので、確かにショックです。

世の中には、「量より質」もあれば、「質より量」もあります。医師国家試験の場合、「質」は合格率、「量」は合格者数です。今年の各大学の合格者数を見ますと、新卒で7校、総数で11校が久留米大学より少なく、「量」は最下位ではありません。

今年の6年生は130人と多く、過去10年間の合格率90.7%で計算すると、118人が合格します。既卒者も21人と多く、今年の合格率83.3%で計算すると、17～18人が合格します。したがって、来年の予想合格者数は118人＋17人＝135人です。

今年の合格者数は日本大学の122人が最多ですので、来年の久留米大学は圧倒的多数でトップになります。新卒の合格者数は山梨大学の120人が最多ですので、久留米大学はまちがいなく上位に入り、少しがんばれば120人台でトップになれます。

母校の同級生が多いのは一生の宝です。来年は医師国家試験の合格者数で久留米大学がトップになれるビッグ・チャンスです。大きな声では言えませんので、大きな字で書きます。質より**量！** 合格率より**合格者数！**
胸を張って誇れる新たな歴史が刻まれるのを私は密かに楽しみにしています。

安達　洋祐

MERSが止まらない。

5月20日、韓国でMERS患者が確認された。患者（68歳）は中東4が国に渡航しており、帰国後、5月11日に発症した。5月4日の帰国時点では発症していなかったとされている。発症後、医療機関を受診しており、多くの医療関係者へ感染が確認された。患者は受診の際に、MERSを疑われることがなく、隔離もされていなかった。WHOの報告によると、2015年6月25日現在で、180名の感染者（29名の死者）となっている。また、5月26日にはMERSに接触機会のあった患者が香港を経由し中国に渡航しており、5月29日に現地で陽性と判断され、恵州病院で隔離された。韓国では、収束しつつある。

MERS-CoV（Middle East respiratory syndrome corona-virus）は、ニドウイルス目コロナウイルス科ベータコロナウイルス属に属するウイルスである。2012年にイギリスで確認された。これまでの主な流行地は、サウジアラビア、UAE、ヨルダン、カタール、オマーン、イラン、クウェート、イエメン、レバノンであったが、ここに韓国が加わる事となった。自然宿主はコウモリであるとされている。中間宿主として、ラクダが考えられており、流行地ではラクダへの接触にも注意が必要である。

重症例では、症状が少ない状態から急性呼吸窮迫症候群（ＡＲＤＳ）を来す 。主な症状は、発熱・咳嗽等から始まって、突然の肺炎、下痢などの消化器症状を示す。腎不全を含めた多臓器不全など、高齢者や基礎疾患を持つ場合には重症化に特に留意する必要がある。

鼻腔吸引液、鼻腔拭い液、咽頭拭い液、喀痰、気道吸引液、肺胞洗浄液、剖検材料などが検体となり、ウイルス分離または、RT-PCRによる病原体の遺伝子検出によって診断を行う。

ニドウイルス目

コロナウイルス科

※ ニドは「入れ子」を意味する。遺伝子が入れ子様構造になっている。

※ コロナは「光冠」を意味する。電子顕微鏡で観察した際のウイルス構造が、太陽の冠のような構造になっている。

http://jsv.umin.jp/journal/v61-2pdf/virus61-2_205-210.pdf

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。医学教育研究センターのニュースレター第三号目です。学生の声を中心としたニュースレターですので、学生さん同士の紹介でコンテンツが成り立っております。できるだけ幅広く学生の声を拾い上げて行きたいと思いますので、この人に書かせたら面白いという推薦がありましたら、ひそかにその人物を教えてください（生贄）。もちろん、自薦でも構いませんよ。ちなみに、前号の子猫の写真はうちの猫ちゃんです。今では両ほっぺの白いお団子は消えておりますが、なぜか夏になると若干現れてきます。

Lovely

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/csme/　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp